

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

創立20周年記念全国大会に参加を

会長 清水康敬

本学会は創立20周年を迎え種々の企画をしていますが、9月23日(木)~25日(土)に東京工業大学で開催されます第20回全国大会は創立20周年を記念する大会となります。

そこで、大会企画委員会と理事会では記念大会に相応しい企画を種々しております。

特に、以下が注目されますので、是非多数の参加を期待しています。

- 基調講演: これからの学校と大学 - 確かな学力と教育の情報化, 大学教員に求められること -**
遠山敦子 前文部科学大臣 9月24日(金) 14:00 - 15:00
- 特別講演: Thinking forward: Theory Application of Information and Communication Literacy in Schools**
Ms. Marilyn Piper (ISTE 理事)
特別講演の後、以下のパネルディスカッションがあります。
教員のICT活用指導力の目標と研修のあり方~米国のISTEの事例を参考にして
9月24日(金) 15:10 - 18:00
- 課題研究05 韓国共同セッション: e-Learning: Policies, practices and research**
9月23日(木) 15:40 - 18:10 終了後、簡単な懇親会
このセッションの参加者と韓国教育工学会関係者との懇親会を計画中です。

電子メールアドレスを登録して下さい (jet-office@japet.or.jp あてにおねがいします)

本学会では電子メールを学会に登録されている会員に情報提供を始めました。例えば、全国大会のプログラムがホームページに掲載された旨を電子メールでお知らせしました。

本号目次

創立20周年記念全国大会に参加を-----	1	2004年6月のシンポジウムの報告-----	10
第20回全国大会のお知らせ(最終報)-----	2	研究会発表募集・報告-----	12
論文誌特集号のご案内(第一報)-----	5	第20回通常総会議事録-----	13
秋の合宿研究会のご案内(最終報)-----	6	第10期第9,10回理事会議事録-----	14
秋の産学協同セミナーのご案内-----	9	新入会員/学会日誌等-----	16

日本教育工学会 第20回全国大会（20周年記念大会）のお知らせ （最終報）

日本教育工学会第20回全国大会（20周年記念大会）を、下記のように東京工業大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。

1. 開催期日・会場

期日：2004年9月23日（木）～25日（土）（3日間）

会場：東京工業大学（大岡山キャンパス）

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1（東急目黒線・大井町線 大岡山駅前）

<http://www.titech.ac.jp/>



2. 大会日程

第1日 9月23日（木）	第2日 9月24日（金）	第3日 9月25日（土）
9:30～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:10 一般研究発表2	9:30～12:00 一般研究発表3
12:00～13:30 昼食・展示見学	English Session	12:00～13:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム	12:10～13:30 昼食・理事会・	大会企画委員会
15:40～18:10 課題研究発表1	展示見学	13:00～15:30 一般研究発表4
	13:30～14:00 全体会	15:40～18:10 課題研究発表2
	14:00～18:00 20周年記念企画 （基調講演, 特別講演, パネルディスカッション）	
	18:00～18:10 移動	
	18:10～20:30 懇親会	

* 第2日目の一般研究発表2の時間帯が10分延長になりました。ご注意ください。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

新情報技術が変える教育の姿

コーディネータ：山西潤一（富山大学）、近藤 勲（岡山大学）

司会：赤堀侃司（東京工業大学）

登壇者：

堀田龍也（静岡大学） 学校間交流・地域連携で学ぶ

影戸 誠（日本福祉大学）身近になった国際共同学習

山内祐平（東京大学） CACLがもたらす学習

黒田 卓（富山大学） ユビキタスコンピューティングと教育

指定討論者：美馬のゆり（日本科学未来館）

(2) 20周年記念企画

基調講演：これからの学校と大学

確かな学力と教育の情報化，大学教員に求められること

講師：遠山敦子（前文部科学大臣，独立行政法人大学評価・学位授与機構客員教授）

特別講演及びパネルディスカッション：

教員の ICT 活用指導力の目標と研修のあり方～米国の ISTE の事例を参考にして～

コーディネータ：近藤 勲（岡山大学）、山西潤一（富山大学）

特別講演：米国における NETS・T とその活用

講師：M. Piper（International Society for Technology in Education(ISTE)理事）

パネルディスカッション

司会：生田孝至（新潟大学）

登壇者：

永野和男（聖心女子大学） 教員に求められるICT能力

村瀬康一郎（岐阜大学） 遠隔教育による教員の力量形成

南部昌敏（上越教育大学） 教員養成におけるICT活用指導力育成カリキュラム

平松 茂（岡山県教育庁） ICT活用指導力向上のための研修カリキュラム

指定討論者：大谷 尚（名古屋大学）

(3) 課題研究

以下の9件のテーマが設定されています。詳しくは、同封のプログラムをご覧ください。
なお、「K-8 教師の ICT 活用指導力のスタンダードの策定とその活用」は、発表希望者が少ないため、取りやめとなりました。

K-1 研究方法論を意識した授業研究

K-2 教育・学習を支援する機器・システム・ソフトウェアの開発意図とその評価

K-3 新しい教育環境における多面的評価

K-4 第2言語学習を支援する技術とインストラクショナルデザイン

K-5 韓国共同セッション e-Learning: policies, practices and research

K-6 e-Learning 成功のための実践・運用のモデル化

K-7 デジタルコンテンツ活用実践の効果

K-9 教科「情報」の実際と実践的課題

K-10 ユビキタス技術の教育利用

(4) 一般研究

一般研究発表は、4つのセッションにて開催されます。詳細については、同封のプログラムにてご確認ください。

(5) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。なお、このセッションは、一般研究発表2のセッションと同じ時間帯(9月24日(金)9:30~12:10)に開催されます。

発表時間について

発表時間は以下のとおりです。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10分 研究発表各 15分 総合討論 1時間程度

[一般研究] 発表 15分 質疑応答 5分

[English Session] 発表 15分 質疑応答 5分

4. 会場の設備について

すべての会場に、プロジェクタ、OHPを準備いたします。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。

5. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は下記へお問い合わせください。

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 大学院社会理工学研究科 室田研究室気付 大会企画委員会 宛

E-mailでの問い合わせ先: jet2004-tenji@mr.hum.titech.ac.jp

6. 大会への参加申し込み

既に事前申し込みは終了しました。まだ振込みを終わっていない方は、大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

大会参加費 当日 4,000円(一般) 2,500円(本学会学生会員)

論文集代 4,500円

懇親会費 4,000円

論文集送料 500円(参加しない場合)

7. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス: jet2004@mr.hum.titech.ac.jp

日本教育工学会論文誌特集号「実践段階のeラーニング」のご案内（第一報）

特集号編集委員会 委員長 永岡 慶三，副委員長 山内祐平

ブロードバンド環境の急速な普及により，eラーニング（情報通信技術を用いた遠隔教育）は企業内教育から高等教育，初等中等教育まで幅広い分野で活用されるようになってきました。eラーニングは実験段階から実践段階へ移行しつつあるといえるでしょう。

実践段階に入ると，実験段階とは違った問題がでてきます。今までeラーニングで提供されてこなかった新しい領域のためのプログラム開発，日本という地域性に配慮した教育方法の開発，様々な教育技術の統合的利用の原則の明確化，教育の質保証のための評価手法の開発など，eラーニングが普及するまでに解決しなければならない課題は数多くあります。

そこで，日本教育工学会では，実践段階に入ったeラーニングについて，今後の普及のために必要な研究を幅広く扱った特集号を企画し，下記要領により論文を募集することにしました。対象は初等・中等教育，高等教育，生涯教育・企業内教育など，幅広くとらえております。これらの分野で研究や教育実践をしておられる会員各位にはふるってご投稿くださいますようお願いいたします。

対象となる研究

eラーニングの発展状況に関する調査研究
既存のeラーニングの問題点を解決するための開発研究
インストラクショナルデザインに関する理論研究
eラーニングの評価手法に関する研究
モデレーションや制度・組織に関する研究
新しい領域におけるeラーニング実践研究
その他実践段階のeラーニングに関するあらゆる研究

募集論文の種類

通常の論文同様に，論文，資料，寄書を募集します。投稿規程ならびに査読は，通常の論文誌の場合と同じです。なお，ショートレターとして既に掲載されている内容あるいは研究会や全国大会で発表された内容を発展させ，論文として投稿することも可能です。

論文投稿締切日

2005年2月7日（月）（2005年10月発行予定）

論文送付先

105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル2F
日本教育工学会 編集委員会

問い合わせ・ウェブサイト

editor@jset.gr.jp <http://www.japet.or.jp/jet/>

特集号編集委員会

永岡 慶三	（早稲田大学）	赤倉 貴子	（東京理科大学）
赤堀 侃司	（東京工業大学）	鈴木 克明	（岩手県立大学）
平嶋 宗	（広島大学）	堀田 龍也	（静岡大学）
福原 美三	（NTTレゾナント）	松居 辰則	（早稲田大学）
山内 祐平	（東京大学）		

日本教育工学会 2004 年度秋の合宿研究会（最終報）

テーマ 「IT活用実践の普及戦略」

主旨：

「学校教育の情報化」推進計画の最終年度にあたる 2005 年度が目の前に迫り、ITを活用した実践を推進する環境が整ってきました。情報教育カリキュラムの体系化、教育情報化コーディネータの配置などの充実も、教員や児童・生徒がITを活用できる可能性を高めてくれます。

しかし、ITを活用した実践に着手する教師が飛躍的に増加しているかということ、必ずしもそうではないようです。一部の地域・学校には、それに積極的な教師とそうではない教師との間に溝が生まれたり、それが深くなったりする現象さえ、確認されます。

IT活用実践に背を向けがちな教師たちにそれに着手してもらうためには、普及に向けたこれまでのアプローチに、何を重ねるべきなのでしょう。IT活用実践の魅力や条件を、より「きめ細かく」検討する必要があるでしょう。

この秋合宿では、「学力向上への貢献」「教科教育との接点」「教員研修の工夫・改善」「校内・地域支援体制のさらなる充実」「IT活用の諸問題とその克服」などを視点として、IT活用実践の普及戦略を明らかにしたいと考えます。そのために、長年コンピュータ教育や情報教育の取り組みを積極的に展開してきた実践研究グループのある熊本を会場に設定し、熊本市コンピュータ教育研究会の協力を得られることとなりました。このグループによる実践事例等の報告を踏まえて、IT活用実践の普及について密な議論を繰り広げることを目指します。

熊本での秋の合宿に多くの実践者や研究者の参加を得て、「IT活用実践の普及戦略」の同定を実現させたいと思います。IT活用の実践にご興味をお持ちの方なら、どなたでも参加できます。ぜひ、近隣の方にも、秋の合宿研究会をご紹介ください。

日時：

10月30日（土）14：00 ～ 31日（日）14：30

場所：

ひのくに会館（〒869-2301 熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧554, 0967-32-0170）

JR豊肥本線阿蘇駅から、タクシーで10分。またはバス内牧温泉行に乘車し「阿蘇温泉病院前」下車（13分）、徒歩3分。自家用車の場合は、国道57号線、JR阿蘇駅近く内牧温泉入口信号から212号線へ入り6km。阿蘇温泉病院前左折200m。

<http://www.kouritu.go.jp/sisetu/syukuhaku/yasuragi/list/54.htm>

*遠来の方につきましては、地元有志により、熊本空港および肥後大津駅と会場間を送迎する予定です。8ページに掲載の教育工学会2004秋合宿専用Webページにて、詳細をご確認ください。

プログラム：

< 10月30日 >

14：00～ オリエンテーション

14：20～15：20

1．基調講演

「IT活用と学力向上，学校改革」

田中博之（大阪教育大学）

* IT活用による学力向上，それを目指した学校改革のあり方について，基本的な考え方をご提言いただきます。また，そうしたコンセプトに基づく実践事例を示していただきます。

15：25～16：10

2．事例の報告と検討

報告者：上妻薫（熊本市立力合小学校）

コメンテーター：野中陽一（和歌山大学）

16：20～18：20

3．課題別分科会

（1）確かな学力の育成に資するIT活用のデザイン <座長：長谷川元洋（金城学院大学）>
未定（熊本市内の小学校等から）

細見隆昭（兵庫県氷上郡氷上町立氷上西小学校）

* 確かな学力の向上，とりわけ思考力などの育成に資するIT活用の実際をご紹介いただきます。

（2）各教科におけるIT活用の展開 <座長：永田智子（兵庫教育大学）>

武田裕二（熊本市立錦ヶ丘中学校）

酒井宏（氷上郡春日町立春日部小学校）

* 各教科の独自性を踏まえたIT活用のあり方について，実践事例をもとに考えます。

（3）IT活用普及に向けた研修の工夫・改善 <座長：赤倉貴子（東京理科大学）>

前川和宏（熊本県富合町立富合小学校）

水野宗市（宮崎市立池内小学校）

* IT活用を普及させるために必要とされる校内研修の工夫・改善について，その秘訣を新しい実践事例に学びます。

（4）IT活用の校内・地域支援体制の充実 <座長：伊藤剛和（奈良教育大学）>

戸田俊文（熊本県立教育センター）

中川斉史（徳島県池田町立池田小学校）

* IT活用の校内・地域支援体制の整備，その充実に向けたアプローチについて，情報化推進リーダ教師，教育情報化コーディネータ，地域の情報教育センターの果たす役割とその連携を中心に考察します。

18：30～20：30 懇親会

20：30～21：30

4．アフターディナーレクチャー

「デジタル社会のリテラシー」

山内祐平（東京大学）

* メディア・リテラシー育成の見地から，IT活用の意義や可能性，問題点とその克服方法等に関する新しい視座を示唆していただきます。

< 10月31日 >

9:30 ~ 12:00

5. パネルディスカッション&オープンディスカッション

「すべての教員がITを活用した授業を創造するために」

司会：木原俊行（大阪市立大学）

登壇者：3の(1)～(4)の座長

*まず3の(1)～(4)の座長を登壇者とするパネルディスカッションを実施します(前半)。また、それらを踏まえながら、参加者全員で討論を展開します(後半)。

12:00 ~ 13:00 昼食

13:00 ~ 14:15

6. 総括講演

「IT活用実践の普及戦略」

堀田龍也（静岡大学）

*2日間にわたる議論を踏まえつつ、「IT活用実践の普及戦略」に関する現状と今後の課題について整理していただきます。

14:15 ~ 14:30

閉会の辞

南部昌敏（上越教育大学）

参加費等：

1. 参加費

30・31日両日参加の場合 3,000円

30日もしくは31日のみ参加の場合 2,000円

2. 懇親会(夕食)費 4,000円

3. 宿泊費(31日の朝食費を含む) 4,000円

4. 昼食費(31日分) 1,000円

*いずれも、当日、会場にてお支払いいただきます。なお、申し込み内容に変更がある場合は、10月24日(日)までに下記担当者までご連絡ください。

参加申し込み方法：

9月8日(水)より10月17日(日)まで、下記Webページにおいて、参加申し込みを受け付けます。ただし、定員(70名)になり次第締め切らせていただきますので、早めにご登録いただきますよう、お願いいたします。

教育工学会2004秋合宿専用Webページ：<http://www.jset.gr.jp/ed-plan/regist/20041030/>

問い合わせ先(担当者)：

合宿研究会のプログラム等については木原俊行(大阪市立大学, tkihara@mbk.ocn.ne.jp)まで、場所や交通手段、参加費等については田辺敬一(熊本県久木野村立久木野小学校, k-tanabe@ra2.so-net.ne.jp)まで、お問い合わせください。

秋の産学協同セミナー 開催案内

「教育ソフト鑑定団2 ネット時代のソフト活用と教育実践」

学校へのパソコン及びインターネットの導入も進み、情報機器を活用した教育実践が格段に増えてきました。また、多数の教育用ソフトが開発され市販されるようになり、それらは場合によっては教育委員会単位で導入され、実際に多くの学校で使われるようになりました。今後、このようなソフトの開発と利用はますます盛んになると考えられますが、そのためにも、教育実践に役立つ優れた教育ソフトが開発されるための土壌作りが必要と考えます。

そこで昨年度の産学協同セミナーでは、教育現場で利用されている教育用ソフト3点を取り上げ、それらの機能、操作性、デザイン、教育実践上の意義などについて、教育工学のエキスパートの視点から評価を行いました。この企画は大変に好評を得ましたが、「今後の評価の際には、エビデンス（証拠：実際にそのソフトを活用した教育実践の成果）にもとづく評価が必要である」という結論を共有しました。いっぽう、学校でのネットワーク利用が本格化するにつれ、校内LANやインターネットなどの利用を前提としたソフトが開発されるようになっていきます。ネットワーク利用により、従来とは比較にならないほどの有効な活用が期待できるとともに、そこに解決すべき問題も生じています。

そこで、本年度のセミナーでは、実際の実践例を取り上げながら、「教育ソフトとネットワークを利用してどこまで意義ある教育実践が期待できるか」に焦点化した議論を行いたいと思います。それらをもとに、利用者、開発者、研究者の3者が相互に意見交換を行い、それを通して、すぐれた教育ソフトの要件を明らかにして知見を共有し、よりすぐれた教育ソフトが開発され、それをもちいたより優れた実践がなされるための支援を行います。

なお、セミナーのタイトルと進め方に「鑑定団」のモデルを採用していますが、このセミナーの目的が、教育ソフトの「評定」を行うことではなく、それを活用した実践を検討し、柔軟で多面的な「評価」を行うことであり、それをきっかけとして、このようなソフトについての議論を盛んにすることであることは、十分に理解して頂けると幸いです。

幼稚園・小・中・高等学校関係者や教育委員会関係者などの教育現場に関わる方々、また、教育ソフト開発や販売を行う多くの企業の方々、またあらゆる研究者の方々や学生の方々の幅広いご参加を歓迎致します。

記

1. 日時・会場

日 時：11月12日（金）午後1:30-午後5:30

会 場：日本教育会館 5階会議室 <http://www.jec.or.jp/>

アクセス：地下鉄都営新宿線・東京メトロ半蔵門線神保町駅（A1出口）下車徒歩3分

地下鉄都営三田線神保町駅（A8出口）下車徒歩5分

地下鉄東京メトロ東西線竹橋駅（北の丸公園側出口）下車徒歩5分

地下鉄都営新宿線・東京メトロ東西線・半蔵門線九段下駅（6番出口）下車徒歩7分

JR総武線水道橋駅（西口出口）下車徒歩15分

2. セミナー内容

第1部：「ネット時代の教育ソフト鑑定団」

（1）今回取り上げる教育用ソフトウェア

- ・ 学校教育用グループウェアとして：「スタディノート」（シャープシステムプロダクト株式会社）
- ・ 提示型一斉授業支援ソフトとして：「デジタル掛図」（東京書籍）
- ・ 授業用ブラウザソフトとして：「サイトくん3」（TDK）

（2）教育ソフト鑑定団

- ・ 佐伯 胖（青山学院大学）認知研究の立場から
- ・ 堀口秀嗣（常磐大学）教育ソフト開発とその利用を指導してきた立場から
- ・ 東原義訓（信州大学）産学共同でソフトを開発し、学校と協力して実践している立場から
- ・ 司会 大谷 尚（名古屋大学）日本教育工学会企画委員会委員長

第2部：パネルディスカッション「ネット時代のソフト活用と教育実践」

ディスカッサント：教育ソフト鑑定団員，その他

3. セミナー案内ホームページ

<http://www.jset.gr.jp/ed-plan/seminar2004/>（9月公開予定）

日本教育工学会 2004 年度シンポジウム

大谷 尚（名古屋大学大学院：企画委員会委員長）
南部昌敏（上越教育大学：企画委員会副委員長）

日本教育工学会 2004 年度シンポジウムは、本学会企画委員会の企画により、平成 16 年 6 月 19 日（土）東京工業大学 西 9 号館 デジタル多目的ホールで、大学関係者を中心に小・中・高等学校の教員、企業関係者など 121 人が参加し、開催されました。

午前の会員向けの「シンポジウム 1」は「日本教育工学会発展の 20 年を振り返る・世代間



対話」と題して、創立 20 年を振り返り、日本における教育工学の世界を切り開き、学会の立ち上げに尽力なさった第 1 世代、その指導を受けて、教育工学を充実・発展させて来られた第 2 世代、さらにその指導を受けて教育工学の次代を担おうとしておられる第 3 世代の 3 つの世代の代表に、それぞれのお立場から講演をお願い致しました。司会は、大谷尚（名古屋大学大学院教授・企画委員会委員長）がとめました。

第 1 世代を代表した坂元昂氏（前メディア教育開発センター所長）は「学会ができて 20 年だが、その前 20 年がある」と、設立に至る長い経緯から示しました。「教育工学」という名称の確立、さまざまな書物と専門雑誌、関連学協会の動向などを示し、またその背景として「教育方法の近代化」と「教育内容の現代化」があったこと、その中で、設立の機会は何度もあったが、研究の普及と成熟を待つとともに、科研費などの学術行政の情勢や動向を踏まえながら、じつに慎重に準備をしたこと、また、学会設立が、教育と教育研究の世界的な流れを背景としていたことなどを、関わって来られた様々な方々のお名前を上げ、多様な文書資料を示しながら、話しました。また、「もう時効だからいいでしょう」と、これまで表に出なかったご苦労についても種々紹介しました。

第 2 世代を代表する永野和男氏（聖心女子大学教授）は、とくに教育工学を学術として位置づけるためのご自身の努力やそのための科研の総合研究について述べました。教育工学を、ひとつの方法論をもった研究分野ではなく、「別々の対象と別々の方法論をもった複数の研究者集団の束」とした上で、「教育における問題解決のための意思決定を支援する 1) 基礎的知見, 2) 道具, 3) 技術, 4) 方法, 5) あるいは問題の発掘や解決過程の解明, を提供する学問」と定義づけ、さらに知見だけでも道具だけでもなく方法の開発も研究の成果であるとししました。そして当面の課題として、研究者間でお互いに成果が参照できる共通の場の必要と、研究成果の可搬性(portability)を高める必要を述べ、さらにシステム開発について解説したうえで、具体的な諸課題を紹介しました。

第 3 世代を代表した香山瑞恵氏（専修大学助教授）は、「教育工学・魅力・期待・将来の夢」と題し、まず教育工学との関わりの経緯、教育現場や学会・研究会や研究中の教育工学研究者としての悩みを披露しました。また多様な価値観や方法論が存在するゆえの悩みと魅力を述べた上で、期待と夢を語りました。最後に、第 1・第 2 世代の両氏に対し、教育工学研究の経緯、教育工学研究者としての自覚、教育工学のこれまでの変化と不変化、第 3 世代への期待について、質問を投げかけました。この後、この質問を中心に 3 者での討論が行われました。

午後の「シンポジウム 2」は、会員及び一般参加者向けとして、「教育工学は授業改善にどう貢献してきたのか？」をテーマに、「基礎研究」「教育システム開発」「授業研究」「学習支援」の 4 つの視点から振り返って評価することにより、今日ならびに将来の教育工学の課題を探ることをねらいとしました。司会は南部昌敏（上越教育大学教授・企画委員会副委員長）がとめました。

最初に「基礎研究の立場」から、永岡慶三氏（早稲田大学教授）が、授業改善のための数理的・計量的データ解析手法に焦点を当て、授業進行支援システム、集団学習応答曲線、授業の

相互作用分析等について述べました。次に、授業にテクノロジーを直接導入する環境が整備されつつあること、授業が教室外に拡大されていること等をあげ、基礎研究としての数理的・計量的データ解析手法の必要性について、汎用性・再現性・客観性が目的であり、現在は教育学であまり活用されていないコンピュータの演算機能を十分に活用することで、直感的には見通しがきかない多量なデータの特徴を分析・抽出することができること、日本型の授業やe-learning設計に資することができることを指摘しました。そして、教育学は[実効/労力]の最大化を目標とする手段提供の学問であり、教育学の工学性は教育事象の定量化に負うところが多いが、教育評価におけるポートフォリオ活用や質的評価等の活用も大賛成であると述べました。

「教育システム開発」の立場からは、岡本敏雄氏（電気通信大学大学院教授）が、「教育における情報システム研究・開発のメタ・モデル化・歴史的考察と新しい論点」と題し、「授業を良くする」という視点から情報システム開発研究が何を意図し、何を問題にしてきたのかに焦点化して論じました。まず、1970年代からの教育における情報システムの研究開発の歴史を振り返り、情報技術としてのシステム研究、新しい学習環境・メディアの創造、学習過程研究のためのテストベッドの3つの目的で遂行されてきたばかりでなく、教育応用の視点から、学習効果、教育効果、評価法、利用形態の面からも議論されてきたと解説しました。さらに、教師・授業との関わりとして、システムの開発・導入・活用・改善等のプロセスにおける教師の役割が問われ、システムの在り方を補完・代替する視点から議論されたことと述べました。そして、教育情報システムの研究は現実的・実践的様相をまだ提供していないとし、問題として、インターネットと教師・授業、e-Learning/CSCLと教師・授業、授業の概念と形態、教師の専門性とシステム、授業と情報システム、教育におけるユーザーは誰か、メタ・モデルをどう捉えれば良いか、消費者・提供者・生産者（開発者、研究者）の関係、教育サービスの流通などの諸問題を指摘しました。

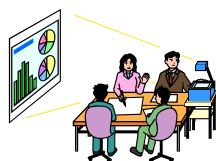
3番目に、「授業研究の立場」から、吉崎静夫氏（日本女子大学教授）が、授業研究の特徴、授業研究と教師教育・情報教育の結びつき、授業研究の課題、授業研究における教育学の課題等について述べました。第1期（1960、1970年代）の授業研究の特徴として、代表的な著作を示しながら、学校現場の授業改善に貢献する様々な技法の開発、授業評価から授業創造への手順・技法の開発、授業コミュニケーション分析手法の開発をあげました。第2期（1980年代から現在）の授業研究の特徴としては、授業研究と教師教育・情報教育の結びつき、現場第一主義と現場教師との共同研究をあげました。つぎに、授業研究の課題として、多様な学習形態や学力形成とIT活用の関係を指摘しました。そして、授業研究における教育学の課題として、システム工学、情報工学、電子工学などの工学に基礎を置く研究アプローチと教育実践学、教育方法学、教科教育学などの教育学に基礎を置く研究アプローチの連携の必要性を述べ、「教育学に基礎を置く教育工学研究者」の養成体制の弱体化の問題を指摘しました。



最後に「学習支援システムの立場」から、赤堀侃司氏（東京工業大学教授）が、学習支援の流れ、実践との融合、いくつかの課題について論じました。まず学習支援の流れについて、背景と学習支援の9要因および、教科ベース、プロジェクトベース、イントラネットベース、リソースベースの特徴と課題について論じました。次に、実践との融合について、実践は広場であることと、方法知を学ぶこと、異なる意見を知ることの必要性を論じました。そして、いくつかの課題として、ITのもつ両面性、情報社会に生きること、プレゼンスということについて課題を指摘されました。

その後、フロアとの間で、有効性と価値について等、さまざまな議論が活発になされました。

研究会の発表募集



教育の情報化 ～デジタルコンテンツを活用した授業実践と評価～

日 時：2004年11月20日（土）

会 場：東北学院大学（仙台市）

開催担当：稲垣 忠（東北学院大学教養学部）

申込締切：2004年9月30日（木）

原稿提出：2004年10月18日（月） PDF形式で電子的に提出もできます。

募集内容：

近年、様々なデジタルコンテンツが開発され、それらを活用した授業実践が数多く見られるようになってきました。本研究会では、そのような実践とその評価に関する研究発表を幅広く募集します。

応募方法：研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。

申し込み締切：2004年9月30日（木）です。締切後、申し込まれた方宛に折り返し発表の採択結果を電子メール

にて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。

原稿提出期限：2004年10月18日（月）必着（厳守！）をお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお、PDF形式（サイズは1Mバイト未満）での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は、学会本部事務局（jet-submit@nime.ac.jp）です。電子メールに添付して送ってください。

研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均10件前後の研究発表で、年間合計500ページ前後になります。価格は郵送料込みで3,500円です（当日売りは割高になります）。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル（視聴覚ビル）2階
TEL/FAX：03-5251-2133 E-mail：jet-office@japet.or.jp

研究会の今後の予定

今後の研究会開催予定は下記の通りです（は依頼中または検討中です）。本年度は、全国大会が開催される9月には研究会を開催せず、発表件数の多くなる年度末、2月に研究会を開催する予定です。

2005年1月22日（土）	国際交流と教育工学	長崎大学
2005年2月	確かな学力と授業実践	関東地方（ ）
2005年3月	学校改善・授業改善と教師教育	鳴門教育大学（ ）
2005年5月	多様な遠隔教育の実践と評価	北海道教育大学（ ）

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望、魅力的な研究会テーマの提案、研究会での企画などをお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

（研究会全般，研究会Web Page，研究会発表の申込，変更等，原稿執筆）に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp

（年間購読，原稿提出）に関するお問い合わせ

学会本部事務局 jet-office@japet.or.jp

研究会の報告

去る7月10日（土）、富山大学教育学部附属教育実践総合センターにおいて「情報教育のカリキュラムと評価」のテーマで研究会が開催されました。時期的に各学校が夏休み前の通知票の作成の時期にあたり、他の申込の時期がかぶったりして、発表件数がなかなか増えず、参加者もあまりないのではないかと心配しておりましたが、さすがに情報教育への関心が高い地域ということで、最終的に50名を超える参加者を得ることができました。ご参加頂いた会員の皆様方に感謝いたします。当日の研究会は、午前中6件、午後4件の発表があり、情報教育ならびにIT技術を活用した教育の現状について、大学教育を対象とした発表が4件、高等学校が2件、小学校が3件、教員研修が1件と、さまざまな角度から発表がありました。また午後後半は、「研修」「カリキュラム」「佐世保の事件」という現在における情報教育と学校教育をとりまくビビッドな問題点をテーマにシンポジウムが行われました。登壇者は、村川雅弘（鳴門教育大学）、黒上晴夫（関西大学）、小川亮（富山大学）の3人の大学研究者に加えて、情報教育にかかわっている現場の先生の代表として棚田英治先生（高岡工芸高校）に加わっていただきました。司会の藤村先生（鳴門教育大学）のリードもあり、4人の発表者の個性をそれぞれうまく出しつつ、自由な雰囲気の中で会場との意見交換を行うことができました。



7月研究会開催担当：小川亮（富山大学教育学部）

日本教育工学会 第 20 回通常総会議事録

日 時：平成 16 年 6 月 19 日（土）12：10～12：40

会 場：東京工業大学 西 9 号館 デジタル多目的ホール

（東京都目黒区大岡山 2-12-1）

出席者：清水康敬会長他 322 名（当日出席者 66 名，委任状提出者 256 名）

議事に先立ち，定款第 47 条により，正会員（現在数 1,708 名）の 10 分の 1（171 名）以上の出席者であることから，総会が成立していることを確認した。

議事：

1．第 1 号議案 2003 年度事業報告および収支決算

日本教育工学会ニューズレターNo.129 の 2，3 ページに掲載されている議案説明書に基づき，中村紘二総務担当理事より 2003 年度事業並びに 2003 年度収支決算について報告があった。また，清水康敬会長より会員名簿印刷に関して補足説明があった。次に監事が欠席のため清水会長より監査結果の報告があった。審議の結果，異議なく，これを承認した。

2．第 2 号議案 2004 年度事業計画案および予算案

日本教育工学会ニューズレターNo.129 の 4，5 ページに掲載されている議案説明書に基づき，澤本和子総務担当理事より 2004 年度事業計画案と 2004 年度予算案について提案があり，審議の結果，これを承認した。なお，清水康敬会長より，学会創立 20 周年記念事業について説明があった。

3．その他

清水康敬会長より，学会として今年度に文部科学省から研究委託を受け，IT を活用した教科指導の効果測定に関する研究を行うことになった旨の説明があった。

以上

日本教育工学会 第 10 期第 9 回理事・評議員会（合同）議事録

日 時：平成 16 年 6 月 19 日(土) 13:00～14:00

場 所：東京工業大学ケータリング食堂

出席：(理事)清水康敬会長,近藤 勲副会長,山西潤一副会長,池田 満,大谷 尚,
木原俊行,坂元 昂,澤本和子,正司和彦,園屋高志,永岡慶三,中村紘司,
南部昌敏,堀田龍也,美馬のゆり,横山節雄,吉崎静夫
(評議員)赤倉貴子,赤堀侃司,伊藤紘二,植野真臣,永野和男,成田雅博,
松居辰則,室田真男,矢野米雄,山内祐平,吉田貞介 (事務局)小林常一

1. 第 10 期第 8 回理事会議事録の承認

資料 1 の通り承認した。

2. 会員の移動について

以下を承認した。

- (1) 新入会員 48 名(正会員 24 名,准会員 3 名,学生会員 21 名)
- (2) 退会会員 14 名(正会員 6 名,准会員 2 名,学生会員 5 名,維持会員 1 社)
- (3) 種別変更 10 名(正会員へ 9 名,学生会員へ 1 名)
- (4) 不明会員 8 名(正会員 6 名,准会員 1 名,学生会員 1 名)
- (5) 除籍会員 107 名(正会員 82 名,准会員 19 名,学生会員 6 名)

3. 学会活動について

フリートーキングでの意見交換,情報交換を行い,以下の報告や意見等が出された。

- ・矢野評議員より今年度の論文誌特集号の進捗状況について報告があった。
- ・清水会長と赤堀評議員より創立 20 周年記念全国大会について説明があった。
- ・堀田理事よりニューズレターの発行について説明と原稿執筆依頼があった。
- ・研究論文のカテゴリーの在り方と実践論文の扱いについて意見があった。
- ・教育工学は学校教育を意識しすぎているので,広く教育をとらえても良いのではないかとの意見が出された。

最後に「Web ページも立ち上げ,会員増につなげたい」との会長の挨拶で終了した。

4. その他

今後の理事会の日程について

第 10 期第 10 回：平成 16 年 7 月 17 日(土) 15:00～17:00

第 10 期第 11 回：平成 16 年 9 月 11 日(土) 15:00～17:00

以上

日本教育工学会第10期第10回理事会議事録

日 時：平成16年7月17日(土) 15:00～17:00

場 所：社団法人日本教育工学振興会(JAPET)

出席者：清水康敬会長，近藤勲副会長，大谷尚，木原俊行，坂元昂，澤本和子，三宮真智子，
鈴木克明，園屋高志，中村紘司，中山実，堀田龍也，前迫孝憲，村川雅弘，
小林常一事務局次長

1. 第10期第9回理事・評議員会議事録を承認した。

2. 会員の移動

新入会員44名(正会員15名，准会員7名，学生会員22名)，退会会員2名(正会員名)，種別変更5名(正会員へ4名，准会員へ1名)を承認した。

3. 各種委員会報告

(1)編集委員会 中山委員より和文誌29号の「e-Learning 特集」公募について説明があった。

(2)企画委員会 大谷委員長より，6月19日(日)開催の企画委員会において検討された，秋の合宿研究会，産学協同セミナーについて報告があった。また，木原委員より，秋の合宿研究会はテーマ「IT活用実践の普及戦略」について説明があった。

(3)研究会委員会 村川委員長より，委員1名の追加と平成16年度の研究会開催結果・予定の説明があり承認された。

(4)大会企画委員会 園屋委員長より，課題研究の一つは申し込みが少なかったのをこれを中止したこと，発表原稿受付中であること，プログラムは8月9日に企画委員会で作業を始めることが報告された。

また，大会実行委員会 中山実行委員より，会場は一般発表の決定後確保すること，受付はバーコード方式(岩手県立大学で開発)を採用すること，企業展示の申し込みがあることなどの報告があった。

(5)学会ホームページ 清水会長から，業者に制作を依頼している旨の説明があった。

(6)顕彰委員会 三宮委員から，投票結果の説明があり，第19回研究奨励賞には23名の推薦者中投票結果上位2名に決定した。また，第18回論文賞には23編の対象論文投票結果1位の論文を決定した。

(8)ニューズレター委員会 堀田委員長より，次号(Vol.131)は大会の特集号となる旨，編集の方針が示され了承された。

(9)その他 次期役員選挙に関連して会長より，理事全員が何らかの役割分担をしてもらえる人が選出することが望ましいという方針が示され了承された。

4. 後援・協賛を承認した。

教育シンポジウム『高校普通科“情報”への期待と課題』

情報教育シンポジウム SSS2004-Summer Symposium in Shinshu

5. 今後の理事会の日程について

第10期第11回：平成16年9月11日(土) 15:00～17:00

以上

新入会員

(2004年5月16日～2004年7月17日)

■ 正 会 員 39名

- 池田 隆介(北九州市立大学)
- 稲葉 竹俊(東京工科大学)
- 井上 仁(九州大学)
- 若山 尚美(富士通研究所)
- 梅村 和夫(武蔵工業大学)
- 大橋 健(九州工業大学)
- 生越 由美(政策研究大学院大学)
- 賀佐 剛士(東京都総合技術教育センター)
- 金子 淳(国立秋田工業高等専門学校)
- 神谷 良夫(愛知学泉短期大学)
- 衣笠 治子(園田学園女子大学)
- 金城 幸廣(筑波大学附属坂戸高等学校)
- 坂本 正孝(武庫川女子大学附属中学・高等学校)
- 清水 悦幸(株式会社インフォザイン)
- 鈴木 啓之(茨城県教育庁)
- 妹尾 堅一郎(東京大学)
- 多賀 謙治(玉川学園)
- 高山 文雄(いわき明星大学)
- 高川 孝史(九州大学)
- 津田 元紀(株式会社 内田洋行)
- 富谷 玲子(神奈川大学)
- 那珂 通明(宮前中学校)
- 中野 由章(千里金蘭大学)
- 中村 隆敏(佐賀県立有田工業高等学校)
- 西村 和貴(津市立豊が丘小学校)
- 葉田 善章(メディア教育開発センター)
- 早川 由紀夫(群馬大学)
- 林部 敬吉(静岡大学)
- 阪 美里(愛知みずほ大学)
- 深井 文宣(有均整クリニック)
- 藤川 大祐(千葉大学)

- 古川 嘉子(国際交流基金日本語国際センター)
- 古谷 俊爾(中国短期大学)
- 前嶋 美紀(まえちゃんねっと)
- 益川 弘如(静岡大学)
- 三浦 克宜(北海道大学)
- 水本 光美(北九州市立大学)
- 山内 千代子(青森放送株式会社)
- 山田 剛史(岡山大学)

■ 准 会 員 10名

- 岩田 之男(言語文化研究所)
- 江口 宏行(新潟市立明鏡高等学校)
- 表 克昌(氷見市立海峰小学校)
- 片岡 浩(相模女子大学短期大学部)
- 金 陽昇(朝鮮大学校)
- 小林 英子(有限会社 ケブラ社)
- 中條 敏江(松任市立東明小学校)
- 皆川 寛(宮城県迫町立北方小学校)
- 向井 康之(福岡町立福岡小学校)
- 渡辺 純恵(富山市立熊野小学校)

■ 学 生 会 員 43名

- 青山 美智代(神戸大学大学院)
- 荒井 美穂(富山大学大学院)
- 有田 志子(公立ほこだて未来大学大学院)
- 猪飼 涼介(関西大学大学院)
- 池田 俊秀(富山大学大学院)
- 伊丹 君和(大阪大学大学院)
- 伊藤 大輔(横浜国立大学大学院)
- 岩田 雅彦(兵庫教育大学大学院)
- 岩場 貴司(RITS 総合研究所 GISセンター)
- 上松 恵理子(新潟大学大学院)

- 大浦 弘樹(東京工業大学院)
- 大貫 和則(筑波大学大学院)
- 荻野 真美(新潟大学)
- 奥林 泰一郎(大阪大学大学院)
- 小澤 克彦(関西大学)
- 小原 亜喜子(東京工業大学)
- 片岡 照貴(いわき明星大学大学院)
- 鎌形 忠典(東京工業大学大学院)
- 酒井 統康(上越教育大学)
- 佐々木 智(上越教育大学大学院)
- 佐藤 和美(関西大学大学院)
- 塩田 真吾(千葉大学大学院)
- 楚 世斌(岩手県立大学)
- 大道 一弘(早稲田大学大学院)
- 田中 弘泉(上越教育大学大学院)
- 刀 克(筑波大学)
- 徳富 政樹(学習院大学大学院)
- 鳥海 健(武蔵工業大学)
- 中野 敬子(千葉大学大学院)
- 野間 美穂(鳴門教育大学大学院)
- 兵藤 友則(静岡大学)
- 福永 良浩(九州工業大学大学院)
- 藤野 良孝(総合研究大学院大学)
- 藤本 雅司(神戸大学大学院)
- 増田 和子(筑波大学大学院)
- 増淵 俊行(北陸先端科学技術大学院大学)
- 三浦 一之(鳴門教育大学大学院)
- 山田 友貴(長岡技術科学大学)
- 尹楨勳(広島大学大学院)
- 四辻 郁恵(大分大学大学院)
- 劉 松(早稲田大学)
- 林 艶(東京工業大学大学院)
- 和田 泉(上越教育大学大学院)

学会日誌

- 9月11日(土) 理事会・編集委員会(JAPET)
- 9月23日(木/祝)～25日(土) 第20回全国大会(東京工業大学)
- 10月30日(土)～31日(日) 秋の合宿研究会(熊本県)
- 11月12日(金) 秋の産学協同セミナー(日本教育会館)
- 11月20日(土) 研究会「教育の情報化～デジタルコンテンツを活用した授業実践と評価～」(東北学院大学)
- 11月27日(土) 理事会・編集委員会(JAPET)
- 2005年
- 1月22日(土) 研究会「国際交流と教育工学」(長崎大学)

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

- 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(editor@jset.gr.jp)
- 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)
- ニューズレター編集に関するお問い合わせ・・・ニューズレター編集委員会(jet-news@japet.jp)
- その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(jet-office@japet.or.jp)

ニューズレター編集委員会

編集長: 坂元 昂, 編集委員長: 堀田龍也, 委員: 小柳和喜雄, 石塚文晴
 静岡大学情報学部堀田研究室 FAX: 053-412-6558 E-mail: jet-news@japet.jp

日本教育工学会ニューズレター No.131

2004年 9月13日 発行人 清水 康敬
 発行所 日本教育工学会事務局
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階
 TEL / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp
 http://www.japet.or.jp/jet/ 郵便振替 00180-0-111042